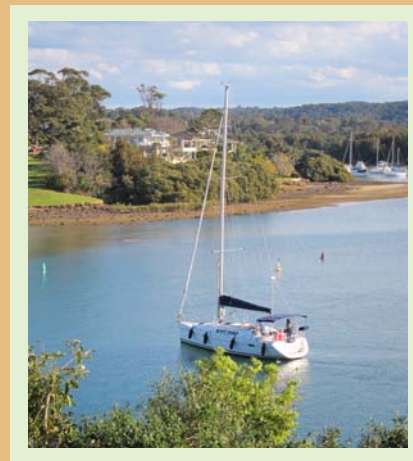
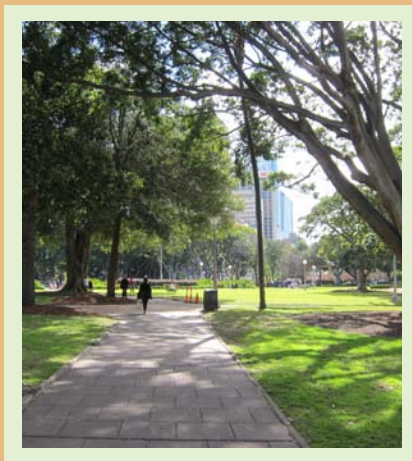
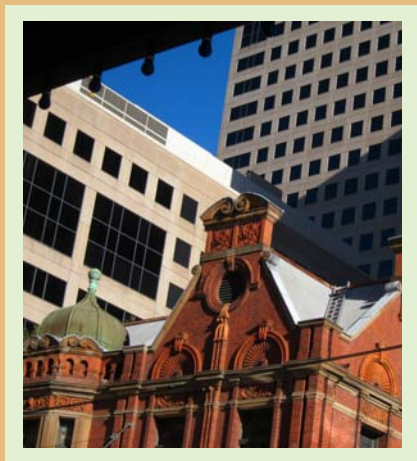


シドニー大学
英語教育センター
University of Sydney
Center for English
Teaching

オーストラリア英語研修報告

東北福祉大学特別企画

8月5日～8月26日



東北福祉大学
国際交流センター

オーストラリアの文化に触れながらシドニー大学で英語を学ぶ

福祉大の学生21名は、夏休みを利用して、3週間の間オーストラリアのシドニーでホームステイをしながら、シドニー大学で英語の授業を受けました。平日は授業と課外活動、文化交流、グループ研究プロジェクトに取り込んで、休みの時間と週末にシドニーとその周辺の観光などをしながら、充実した時間を過ごしました。

各担当者のコメント

高橋 加寿子 東北福祉大学教授(英語)



本学の海外学生研修プログラムの一つとして、オーストラリアのシドニー大学英語教育センター（CET）における、「3週間英語研修プログラム」が今年度初めて行われました。各学年、各学部から男女あわせて21名の参加があり、3週間に渡って、英語研修60時間、現地の他の留学生との交流、学生の専門性を考慮した社会福祉プロジェクト、ホームステイ、観光を含めた様々な野外活動を経験しました。学生は英語の運用性を高めると同時に、多文化と移民の国オーストラリアにおける福祉の現状やその生活、素晴らしい大自然と文化を垣間見ることができました。今回、留学を決定した学生たちにまず拍手を送りたいと思います。なぜなら、すべての始まりはここにあるからです。海外に行き、異文化に触れ、違いを経験し、振り返って日本人としての自分や慣れ親しんだ日本文化や社会に新しい目を向ける。そのような柔軟でしなやかな精神が学生たちひとりひとりにみながっていました。もっと世界を見たい、もう一度留学したいと強く思う学生もいます。学生たちには、これからも自分や自国の文化を説明し、発信し、異文化の人たちと理解し合うための実践的なコミュニケーションツールとして英語を学び、様々な経験を通して自らの人生を豊かなものにしてほしいと願っています。

今回この研修に参加する機会を与えて下さった本学の国際交流センター、大学当局に感謝すると共に、研修の準備を整え、同行したアレクセイ・コノネンコ氏、そして、Daniel Bruce先生、Stephen Howlett先生、Jerry Brown先生、Katherine Olston先生を初めとするシドニー大学CETの大変教育熱心で教育のためなら何一つ厭わない先生方に対し、心より感謝いたします。

ジェラルド ブラウン教授、シドニー大学英語教育センター



Living and studying in another country can be one of the most valuable and rewarding experiences of your life. It is a unique opportunity for discovery of yourself and the new culture you will be immersed in. But, like everything else, 'you only get out what you put in'.

So what should you do to prepare for your overseas studies, what should you do when you get there and what should you do when your studies are over?

There is much that you can do to ensure that your overseas study experience is a good one. Prepare yourself mentally as well as work on your English language skills, especially your listening and speaking.

When I say prepare mentally, I mean open your mind up to new ideas and new ways of thinking and doing. A tolerant attitude and a suspension of one's judgement to new things will enrich your experience overall.

When you begin your studies you may find a number of differences to the way you study in your university. University life can be as different as the culture. You may find the learning and teaching style strange and you will probably be very nervous at first. That will pass as you become more confident. Actively participate in class. Expect to talk and discuss things with other students and the teachers. Do not just sit there and be quiet. You will have to work hard but this will have its own rewards.

When your time comes to leave and return home, reflect on your experiences, use the things you learned to help you continue the development of your English, and remember the new knowledge that has come to you. It will give you a wider and better way of thinking.

コノネンコ アレクセイ、東北福祉大学職員



今回の企画は本学の初めての試みでしたので準備段階から当初様々な不安がありました。特に、費用は比較的に高かったので学生が集まるかどうか心配でした。しかし、企画の魅力に引かれて、国際交流センターの職員、国際交流運営委員会の先生方の協力に動かされて学生は定員オーバー集まりました。

本学の学生はシドニー大学でとても暖かい歓迎を受けて、整っている学習環境で言語教育の専門家から非常に質の高い英語の授業を受けました。授業以外のところ、生活面、文化交流、観光、などの面で充実したプランが提供され、状況の変化に早い対応をしてくれました。海外の長期滞在ということで若干様々なトラブルもありましたが、全て現地の方々の協力の上で解決できて、3週間の滞在期間を無事に、安全に終えることができました。

3週間は短い期間でしたが、参加した学生が「素晴らしい経験を経て、視野が広くなりました」とコメントしていますので今回の研修は目的を果たしていると思います。今後の継続を願っています。

学生からの感想レポート

青山 侑璃 健康科学部 2年生

今回のオーストラリア語学研修は、私にとって凄くプラスになる経験となりました。また、この経験を通して目標を再設定することが出来ました。

私がこの研修に参加しようと思ったきっかけは、将来の仕事の可能性を広げようと思ったからです。英語が苦手な私は、今まで出来る限り逃げて通ってきました。普段、日本で生活していれば英語が話せなくても不自由なく生活ができます。しかし、それではこの先一生英語から離れていかなければなりません。今の時代、英語が話せなければ仕事をしていくのは大変です。そのためにも大学生活をしている間に克服したいと思い、まずは海外に行って自分の英語力やコミュニケーション力がどのくらいあるのか、ライフスタイルはどのようなものなのか調べたいと思い参加しました。

日本を出ると全く言葉が違うため、嫌でも英語を一生懸命使おうと努力するとともにコミュニケーション力や対応力も養われてきました。最初は良く分からず電子辞書片手に会話をしていましたが、だんだんと言っている事が理解できるようになり、少しずつですが自然な会話が出来ようになってきました。初めの頃は間違ったらどうしよう、と不安ばかりでしたが、私たちが日本人であること、つまり彼らからすると私たちが外国人なので間違った英語を使っていることも全然大丈夫な事に気づきました。黙っているよりはかは単語だけでも話した方が思いが伝わるということを学べました。

そしてもう一つ大きなことに気づきました。日本にだけいると世界を知ることは出来ません。となりの国に行くだけでも良いと思います。違った文化に触れあうことは凄く大切だと思います。私が特にこのオーストラリアに来て感じたのは、オーストラリアは人種が多様なため各国の生活スタイルが違います。文化も違えば言葉も違います。けれども、皆それぞれの文化を受け入れ壁を作らない大きな心を持っています。そんな彼らを見て私もこの人たちのような心の広い人になりたいと思いました。

It was a really positive experience. I thought that Australia had an environment that changed me for the better. I want to go there again.

須藤 彩葉 子ども科学部 3年生

シドニー3週間

8月5日から26日までの3週間、CETの留学プログラムに参加してきました。英語の勉強をしたと思ったことと外国に行ってみたくて思ったことがきっかけで、今回参加することに決めました。

海外に行くこともホームステイをすることも初めてで、不安と緊張でいっぱいでしたが、3週間で終わってみて参加して本当に良かったと思っています。

留学の第1週目はとにかく慣れることで精一杯でした。事前に勉強したはずの英語も通じなかったり聞きとることができなかったりの繰り返しでした。また学校への行き方やホームステイ先の自宅までの帰り方もなかなか慣れず、知らない土地で暮らすことの大変さを知りました。またシドニー大学の規模の大きさやきれいさ、たくさんの国の人たちが過ごしていることに驚きました。中国人やサウジアラビア人など様々な国籍をもった人たちも留学をしていたのです。その多国籍性にも驚きました。

金曜日（8月10日）にはオープンクラスで他のクラスの人たちと交流する機会があり、オリンピックについてのクイズをしたり、チームに分かれてゲームをしたりしました。みんなの知識の多さや英語力に驚きました。シドニー大学ではたくさんのことに感動し刺激をたくさん受けることができた1週間になりました。この週の土曜日（8月11日）にはみんなでブルーマウンテンに行きました。すごく寒かったのですが景色もきれいでとても感動でした。そのあとにみんなでバーベキューをしてワイルドライフパークにも行くことができ、このときくらいからみんなの仲が深まっていったのではないかと思います。バスの中で見た夕日も本当にきれいでした。日曜日には自由行動だったため水族館に行ったり観光しに行ってきました。有名なフィッシュ&チップスを食べていたとき、海辺の近くだったためなのかカモメに襲われながら食べたことは良い思い出です。この日の夜、ビールの



“I spent exciting days for 3 weeks”

美味しさに目覚めることになりました。

2週目からはグループごとの企業訪問が始まり、レポートやプレゼンテーションの準備に追われるようになりました。私たちのグループはオーストラリアの高齢者ケアについて調べることになり「Principal Stanmore」という高齢者施設を訪問することになりました。

シドニーでの生活にも慣れてきて楽しい毎日を過ごすことができるようになりました。クラスの間みなとも話せるようになり、授業に参加することも楽しいと感じるようになりました。つたない英語でしたが、先生や外国の友だちに通じると英語が楽しくなり、もっと勉強しようと思うようになりました。

この週の水曜日（8月15日）はオープンクラスで、大学でバーベキューをしました。大学内でバーベキューがで



きたり、みんなでバドミントンやサッカーができる場所があることがうらやましいと思いました。金曜日（8月17日）にはシドニーの散歩に行きまし

た。ハーバーブリッジに登り景色をながめたり、教会に行ったり街を歩いたり本当に楽しかったです。この日の夜、福祉大のみんなで大学内にあるバーに行きました。みんなとはこの留学プログラムを通じて友だちになったのですが、ずっと仲がいい友だちという感覚になりました。アレクセイ先生と高橋先生とも飲むことができて本当に良かったです。土曜日（8月18日）にはメンリービーチで初めてのサーフィンを体験しました。私は泳げないということもあって不安と緊張しかなかったのですが、実際やってみると本当に楽しくて、泳げなくても大丈夫でした。残念ながら立つことができませんでしたが、サーフスクールの先生やアレクセイ先生に何度も助けられながら楽しむことができました。アレクセイ先生のサーフィンは本当にかっこよかったです。日曜日（8月19日）はフィッシュマーケットとボンダイビーチに行ってきました。フィッシュマーケットでは新鮮な魚やフルーツが売っていて、どれも美味しそうでした。ここで食べたフィッシュ&チップスとロブスターは忘れられないくらい美味しかったです。この日は

泳いだりしなかったのですがボンダイビーチにも行きました。オーストラリアの海はきれいで、普段あまり海には行かないのですが大好きになりました。あっという間に過ぎて行った2週目でした。



そして3週目には今まで以上にホストファミリーとも仲良くなり話せるようになってきました。私たちのためにパンケーキを作ってくれたことがあり、本当に美味しくて嬉しかった思い出になりました。学校ではいよいよプレゼンテーションがやってきました。他のグループ発表も自分たちのグループの発表も英語での発表だったので、とても緊張しましたが無事に終わることができました。オーストラリアと日本の制度の違いやアプローチの仕方の違いを知ることができたので、これからの生活や就職活動に活かしていくことができればよいなと思っています。8月24日、最後の授業ではみんなでシドニー大学のパーカーを着て出席しました。クラスの間みんなで写真を撮ることができて本当に良かったです。

3週間本当にありがとうございました。

I spent exciting days for 3 weeks.

This program is my good choice.

Ms Takahashi, Alexei and every student, thank you very much.

I love Sydney. I love everyone.

岩堀 仁美 総合福祉学部 2年生

オーストラリアでの3週間

私がオーストラリアで一番印象に残っていることは、シドニー大学の留学生と交流を持てたことである。私は今まで外国人との交流を持つことがなかった。今回オーストラリアでは、クラス別に英語の学習を行った。そのクラスは15人程に少人数で行われていた。私たちのほかに既に何名かの学生が授業を受けていた。中国や韓国、サウジアラビアから来ていた。私はそのとき初めて、同年代の留学生に会うことができ、緊張していたが、嬉し

"I had a good time in Sydney"

くもあった。授業中ペアを作り、話し合いながら答えを見つけ出すことがあった。共通語が英語であるため、英語を話さなければ会話をすることができない。最初は何をどう言えばいいのかわからず、黙っていたり相手が話すことに相槌をしたりなかなか自分から話すことができなかった。私は、何かを話そうと思い、相手の話し方をよく観察していた。彼らも母国語ではないため、片言の英語を感じることもあるが、気にせずにはっきりと話していた。また、自分の意見を相手に伝えるときに、"I think..."と言っていたことが印象的であった。私は彼らの話す姿を見ることで、自分も積極的に話してみようという気持ちになった。授業の中で、他のクラスと同じ活動をするときも英語を使ったり、言葉以外の身振り手振りを使ったりコミュニケーションをとることができた。

オーストラリアに行ったことで、日本人以外の人と多く話すことができた。また、もっと英語を身に付けて話したいと感じるようになった。自分と同じ世代の学生が努力している姿を見て、自分も影響されたので、積極的に英語に触れる機会を増やそうという気持ちになった。

吉田 和真 子ども科学部 2年生

I had a good time in Sydney. I will talk about what I thought in Japanese.

私は今回のオーストラリア留学が初めての外国でした。そのため行く前はどんなものなのか予想が全くつかず、留学をしたことのある人は皆行ってみるべきだと言っていました。不安を感じる気持ちが大きかったです。もともと外国に興味があったことと、就職したら留学のような機会は少なくなると思い思い切って行くことを決意しました。

オーストラリアは日本とは文化も含めて違うことばかりで、毎日が新鮮で刺激なことばかりでした。それと同時に毎日が必死で考えて行動しなければいけない事ばかりでした。自分の考えることを相手に伝えるだけのことが大変難しく、しかし考えて話す習慣がついたことは大きかったと思います。また一番感じたことで、それと同時に知ってよかったと思えたことは、日本の良い点、オーストラリアの良い点を実感できたことだと思います。日本は接客や物などのクオリティが素晴らしく、私が日本人なのももちろん関係あるかもしれませんが、とても過ごしやすい国だと

感じました。オーストラリアの良い点で日本もあればいいのにと感じた点は、人々の日々の生活における考え方です。オーストラリア留学中に知ったことなのですが、オーストラリアではお店の人のほうがお客様よりも立場が上ということらしいのです。言われてみれば、ものを食べながら接客している人や日本では考えられないほどフレンドリーな店員さんをたまに見かけました。日本ではあまり見ない光景だと思います。私の考えでは、日本人は仕事が全てで、自分の好きなことは空いた時間にやるしかないというように考えている風習があると思います。しかしオーストラリアの人々は、全員ではないと思いますが、自分の好きなことをやるために仕事があると考えている人が多いのではないかと感じました。接客も楽しそうにしている人が多く、毎日楽しく生きて行こうとしているように感じました。日本はすべてを完璧にやらなければいけないと考えており、それは素晴らしいことだと思うのですが、時間やルールに縛られすぎて仕事を楽しむことができにくい社会なのではないかと感じました。私の性格上、オーストラリアの考え方は性にあっており、うらやましく感じることもありました。

仕事における考え方だけでなく、生活の中でも自分の意見をしっかりと持ち、発言をしたりする彼らは日本では少ないと感じました。おそらく幼少時代から放任主義的な家庭や学校で教育されたのだと思います。私は保育施設に見学に行かせていただいたのですが、児童の好きなことをさせて、ルールはあつてないようなものだと感じました。日本も児童の意見を尊重するようにはしていますが、先生が指示を出して召集をかけたり、やることをみんなで一斉にやる一斉保育なのに対して、オーストラリアでは先生は児童がしたいことを見守りサポートをすることを重要視しているように感じました。その教育のおかげで人々は自分の思った事は発言できるのだと思います。日本は誰かが指示を出してくれることで動いていたので、どうしても周りの様子をうかがってしまうのかもしれない。

外国に行ったことは自分が想像していたよりもとても勉強になり、それでいてとても楽しかったです。ただ単にその辺を散歩するだけでも新しい発見があり、毎日ワクワクの3週間でした。外国に行ったことで日本での生活にメリハリがつきそうです。夢に向かって頑張ろうという気持ちになり、小さな悩みなど吹き飛ばしてしまいました。向こうであった仲間や日々のことは一生の思い出になると思います。本当にありがとうございました。

"Australia for the first time"

本間 康司 総合マネジメント学部 4年生

オーストラリア留学を経験して、一番感じたこと、勉強になったのは自ら行動していく大切さ今までより一層強く感じたこと。そして、何事もポジティブに考えて行動していくこと。

日本語が通じない状況、右も左も分からない状態で、ホームステイ先から学校までの道のりや目的地までたどり着くのに必死だった自分。でも何とかして自分なりに考えたり、人にボディランゲージで表現したり、自分でできることをしていくと、案外うまくいったりした。何事も人を頼りにせず、まずは自分の力でやれることをしてみるのが大切なことだとオーストラリア感じた。

初日にホームステイ先から学校までの道のりで迷い、授業に5時間遅刻したり、ハリケーンが来ているのに、家分からなくて迷子になったりなど、初日から1週間経つくらいまでは、まともに学校からホームステイ先まで帰れたことがなくて、ピンチというか、色んな人に迷惑をかけっぱなしだったと思う。それでも、ルームメイトと一緒に迷子になりながらも笑いながら「何とかなるでしょう」くらいの軽い気持ちでブラブラ散歩していた。

なんでも楽しみながら行動しているとピンチの状況も何とかなってしまったので、最後の方は一人旅をしてバスに乗って遠出したりしていた。

シドニーの人や学校の留学生は親切で優しく、気軽に話しかけてくれたりするので、すぐに友達になれた。

ホームステイ先の人でも日本人の自分たちに気を使ってくれて、カップヌードルやお米を炊いてくれたり、スーパーに連れて行ってくれたり。迷子になり、ディナーで大遅刻したときも爆笑して許してくれたりと神がかり的なやさしさだった。

学校での授業も、日本では考えられない授業ばかり。先生がガム食べながら、チョコくれたり、授業でバーベキューしたり、カフェに行ったり。そんな授業でも、最初は英語ばかりで何を言っているか全然理解できないし、クラスメイトもコロンビア、スペイン人がいて訛りが強く、話していることが聞き取れなかった。最初は理解不能だったが、最終週くらいになると、何となく話していることが聞き取れるようになってきたのかなという感じにはなった。喋れなくとも、会話を聞いて、適当に爆笑していれば、皆と仲良くなれるし、友達になってご飯に行くことも出来た。英語を喋れないからといって自分の殻に閉じこもるより、

喋れなくとも、自分から会話の輪の中に入っていくことが大切だと思う。授業でも同じことで、外国の人たちは、周りの空気なんか一切読まずに先生に質問や感想、発言をしていく。これは凄く大切なことだと思うし、日本人には足りないことだと思う。だから、最初に述べたとおり、自ら行動、発言していくことが、英語を話せる近道になるのでは、と思う。

来年も継続してこの語学研修があれば、来年行く人にアドバイスできればと思う。

* オーストラリアは物価が非常に高いです！お金を余分に持っていくこと。

* オペラハウスには行きましょう！近くのレストランでディナーするのがいいかも。

* オペラハウス近くにある関西人のおっさんが経営しているお寿司が美味しいよ。

* フィッシュ&チップスは最高です。

* カフェがいっぱいあり、コーヒーが美味しいので迷子になった時は、とりあえず近くのカフェに入って一服しましょう。

* タバコむちゃくちゃ高いので、日本かどっかで先に買った方がいいかも。

* インスタントの味噌汁やお茶は必需品です。

* 用事はなくても散歩や、お店に入って、店員さんと会話するだけでも勉強になることがあると思います。シティーをブラブラ一人旅するのもアリ。

とりあえず、語学研修行こうかなと悩んでいる人は行かなくて後悔するより、行って後悔するほうが良いと思う。まず、行って後悔するなんて無いと思う。それは今回行って皆思ったこと。行ってよかった。日本に帰りたくない。もっとオーストラリアを楽しみたいって皆思っていたので、まず、行くというアクションを起こすことが大切なんじゃないかなと思う。

平野 香都 子ども科学部 2年生

SPOT WHAT!

I am KOTO! Australia for the first time. 3weeks.

8月が冬であるという経験は、生まれて初めてのことであった。

"I will study English very hard"

夏の暑さが嫌いな私にとって、天国のような気温だった。飲料水は日本と違って高価なものであり、ペットボトル1本買うのも迷うくらいであった。また、自動販売機で売られているボトルは600mlで、そこにもまた日本との違いが感じられた。

ホームステイ先のお宅は、プールがあり、韓国・中国・ベトナムの留学生が住んでいた。毎日の食卓には、お肉の含まれる料理が並び、私は日々、太るのではないかと恐怖に怯えながらお腹一杯、ディナーをたらいげるとい生活を送った。デザートまで出る日は、さすがに罪悪感で押し潰されそうになった。もちろん、私には別腹という考えがあるので、そんな罪悪感には知らんぷりをしてみた。ホストマザーの作る料理はすごく美味しくて、なかでもアップルパイが私は大好きだった。さて、シドニー大学は、とにかく規模が大きく綺麗な処であった。大学の敷地が広大すぎて、迷子になるのではないかと思うくらいだった。芝生に座ってランチを食べたり、寝そべりながらホームワークをしたり、そういった一つ一つの生活習慣の違いが新鮮で、かつ刺激的だった。大学内にいくつものお店があり、カフェやパブも充実していて羨ましい限りであった。学食のようなところに、卓球台があって学生たちがテーブルテニスに熱をそそいでいたのは異様な光景に感じたのだが。それにしても、どこの国においても共通しているのは、子どもは可愛く人々を笑顔にする存在であると感じた。企業訪問で、child care centerに行った時も、そのことを強く思った。そして一



層、子どもと携わる仕事に就きたいと改めて考えた。日本だけでなく、他国でも虐待や環境によって問題を抱えている子どもは少なくない。そういった子どもたちが少しでも幸せになれるように、何ができるのだろうと思うと、自分の未熟さを思い知らされた。多くの子どもたちが心から笑えるように、私は学んでいきたい。

層、子どもと携わる仕事に就きたいと改めて考えた。日本だけでなく、他国でも虐待や環境によって問題を抱えている子どもは少なくない。そういった子どもたちが少しでも幸せになれるように、何ができるのだろうと思うと、自分の未熟さを思い知らされた。多くの子どもたちが心から笑えるように、私は学んでいきたい。

層、子どもと携わる仕事に就きたいと改めて考えた。日本だけでなく、他国でも虐待や環境によって問題を抱えている子どもは少なくない。そういった子どもたちが少しでも幸せになれるように、何ができるのだろうと思うと、自分の未熟さを思い知らされた。多くの子どもたちが心から笑えるように、私は学んでいきたい。



層、子どもと携わる仕事に就きたいと改めて考えた。日本だけでなく、他国でも虐待や環境によって問題を抱えている子どもは少なくない。そういった子どもたちが少しでも幸せになれるように、何ができるのだろうと思うと、自分の未熟さを思い知らされた。多くの子どもたちが心から笑えるように、私は学んでいきたい。

層、子どもと携わる仕事に就きたいと改めて考えた。日本だけでなく、他国でも虐待や環境によって問題を抱えている子どもは少なくない。そういった子どもたちが少しでも幸せになれるように、何ができるのだろうと思うと、自分の未熟さを思い知らされた。多くの子どもたちが心から笑えるように、私は学んでいきたい。

I will study English very hard. I want to go to Australia again.



隅山 舞 総合マネジメント学部 1年生

2012年8月5日から26日まで、東北福祉大学主催のオーストラリア英語研修に参加した。初めての海外ということでワクワク感もあったが不安もあった。自分の英語はちゃんと伝わるものなのか、聞き取れるのだろうかという不安である。

しかし実際行ってみると、そんな心配をしなくてもクラスメイトがわかりやすく説明してくれた。先生が何度も繰り返し復習して下さったおかげで三週間目には少しずつ英語が聞き取れるのを感じた。残念なのは3週間しかいら



“I changed my view of life.”

れないことである。ようやく耳が少し慣れてきたという時に帰るので、せめて半年いられたらなと思うばかりである。次の機会には一年間の留学を検討している。

スピーキング、ライティング、リスニング、この中で一番苦手なのはどれかと聞かれたら、真っ先に答えるのがリスニングである。今回の留学で一番不安だったのは、英語がちゃんと聞き取れるのだろうかということである。地元のおばあちゃんの方言が聞き取れず「～？」と聞かれ、やばい語尾が上がった！とドキッとすることがある。日本語ですらそうなのに、アメリカ英語とイギリス英語とオーストラリア英語で発音が違ったりするんだよと言われ、勘弁してくれという気持ちであった。

いざシドニー大学の授業に参加すると、難しい単語はあまり使われず、新しい単語が出てきても日を改めて何度も復習するし、ゲーム形式が組み込まれていたりと楽しく学ぶことができた。

日本との違いを感じたのは、分からないことはしょうがない、「聞け」という考えがあることである。日本では分からないから聞くでは、ためにならないし頼り過ぎという感覚があった。しかし、ここではむしろ質問した方が、質問された人のためにもなるということが分かった。分からない人に分かってもらうということは自分がそのことについて理解しなければいけないし、説明するために単語力も必要となる。たこ焼きが好きだというと、たこ焼きって何？と聞かれ少ないボキャブラリーの中で、あわあわしながら説明をしたことを忘れない。説明の後の伝えきれてなくて苦笑いされたことも忘れない。もっと単語力を増やそうと思った。

オーストラリアでは基本ゆるーいのが印象的だった。また、移民の多い国なので様々な国の人とお話ができてとても有意義な時間を過ごすことができた。

加寿子先生、アレクセイ先生、本当にお世話になりました。入場券をなくしかけたり、音信不通で心配をかけたりといろいろな迷惑をかけてしまい申し訳ないです。

3週間という短い期間でしたが先生のおかげで楽しく過ごせました。本当にありがとうございます。

谷口 愛美 健康科学部 2年生

今回の海外英語研修で、私は初めて海外へ行った。言葉の通じない異国の地でまず初めに遭遇したのは、20歳

という大人の仲間入りという年齢になったにもかかわらず、ひとりでは何もできない自分だった。電車に乗るにも、ホストファミリーとコミュニケーションをとるにも一苦労である。人の言っていることが何だかさっぱり分からないのでもどかしく、外国人と話すことを恐れてつい避けてしまう。そこで、私たちが通ったCETは、そんなわたしたちを手助けしてくれた。1週目では全く聞き取れなかった英語の授業も、だんだんとわかってくるのだ。週に一回のオープンクラスの授業では、クラスの壁をこえてさまざまな国の友達を作ることができた。CETの友達は、言いたいことが上手く英語で表現できなく言葉につままっていると「Try! Try!」と励ましてくれる。誰も壁を乗り越えながら英語を学んできているため、気持ちを共有できる部分を感じ、会話がより楽しくなった。

シドニーはとてもよい街である。比較的治安はよく、交通機関に不便もない。そして、なんといっても素晴らしいのは変化のある景色である。夜景を見に、夜にハーバーブリッジとオペラハウスの見える丘へ行ったりした。他にも水族館、動物園、ショッピングセンター、ブルーマウンテン、ボンダイビーチなど名所という名所を満喫することができた。

一番楽しかったのは、サーフスクールである。きつと、シドニーに来なければ一生縁の無かったことであったのでとても良い経験になった。インストラクターの方が援助してくれるので、誰でもすぐに波に乗ることができる。仙台には絶対に見られないきれいな海で、サーフィンとフィッシュ&チップスを堪能できたことは、この上ない思い出である。

私がお世話になったホームステイ先には、私たちの他に留学生が4人いた。そのうちの1人、韓国人の男の子と仲良くなった。家を出る時間がほぼ一緒なので駅まで毎朝一緒に行った。英語での会話がほとんどだがお互いの母国語を教え合ったり、私たちが帰国する直前には彼の学校のお別れパーティーによんでくれたりと、とても仲良くしてくれた。もし彼が日本に来るとき、または私たちが韓国に行くときには必ずお互い連絡をしようという約束をした。自分の話せる簡単な英語で、こんなにも人と繋がりを持てるようになるということを彼との会話の中で学んだ。

英語を学ぶ大切さとその過程の楽しさを、今回の研修で知ることができた。知らない世界へ飛び込み打ち解けるには、努力と好奇心、積極性が必要である。そのことを学ぶことができたこの機会に、自分を大きく成長させることができたのは、これからの人生で大きな糧になるだろう。

“In Australia I had a pleasant experience”

菅原 美華子 情報福祉マネジメント 4年生

I changed my view of life after this Australia training. I went overseas for the first time. It was not easy for me. I did not get used to life at first. I wished to return. But it became more and more pleasant.

Many immigrants are in Australia. People were kind even when my English was not good. The salesclerks of the store were also kind and there were many frank people.

In Australia, I had pleasant experience. I enjoyed the Nature in Blue Mountains. It was a spectacle scenery which Japan does not have. It was very mystical that the oil of a eucalyptus is reflected in the sun and looked blue.

The Manly beach was very beautiful and I was impressed. Sea water was too cold. But It was good to experience the sunlight and emerald water.

My house had an Indian father. Therefore, supper we ate was the Indian food. The Indian food was the first choice in the house. It was very delicious.

This is curry called Dahl.



芳賀 真 総合福祉学部 2年生

今回シドニー大学への短期留学を経験して、今後の人生の新たな目標や今の自分の限界を知ることができました。

私がこのプログラムに参加した理由は、英語力の向上と異文化に対する理解を深めることにありました。以前から海外に対する憧れはありましたが、だからといって、留学するという選択肢は当時の私にはありませんでした。しかし、大学一年生の後半頃から他国の文化や生活に対する興味がより一層強くなり、インターネットを使い日常英会話を勉強するようになり、英会話教室にも通い出しました。そして、その英会話教室で自分の英語が通じる快感を覚え、外国の方とのコミュニケーションがとても楽しいことに気がきました。それから留学について考えるようになり、ちょうどその時期にこのお話を聞き参加を決意しました。

シドニーでの生活は毎日が一生懸命で、常に刺激的でした。授業はもちろん、買い物や観光、ホストファミリーとのコミュニケーションなど、生活のすべてが英語でした。そして一番初めにそういった環境の中で自分の無力さを痛感しました。自分が言いたいことが伝わらない、相手が何を話しているのかわからない、今まで勉強してきたことは無意味だったのではないだろうか、とも思いました。実際に自分が使う英語、話している英語の文法や発音はネイティブ英語とはかけ離れています。しかしそれでも言葉が通じる、会話が成り立つ場面があるのは、ボディランゲージや表情など人間が使えるすべての表現方法を用いてコミュニケーションを行うからです。

コミュニケーションの方法は言葉以外にもたくさんある、しかしその中でも最も有効なのが言語であることを学びました。そしてさらに自分の英語に磨きをかけ言葉でコミュニケーションをとれるレベルを目指します。

そのためにも新たな目標として三年生後期に留学を考えています。

津田 知恵 総合福祉学部 3年生

毎日が多くの刺激に溢れていて、新しい発見が沢山あった。これが今回のオーストラリア英語研修を終えた私の感想である。また、日本と違う多文化社会のオーストラリアで過ごした3週間は、私にとって貴重な経験にな

“I love Sydney!”

った。

私が今回のオーストラリア英語研修に参加したのは、幼い頃から一度は留学をしたいという考えがあったからだ。その幼い頃からの夢を叶えるために参加した英語研修では、オーストラリアという日本とは季節も歴史的背景も全く異なる国で私は多くのことを体験し、毎日が刺激的な3週間を過ごすことができた。私がこの3週間で感じ、考えたことは沢山あるが今回は主に2つのことについて書く。

1つ目は、英語は言葉であると実感することができたということだ。私は中学・高校・大学と英語の勉強をしていくにつれて英語が人と人を繋ぐ言葉であるということをおぼえてしまっていた。しかし、ホストファミリーやシドニー大学と一緒に学んだクラスメイトをはじめとした多くの人とコミュニケーションをとっていくなかで英語は、人の想いや考えを世界中の人と共有することができる唯一の言葉であると実感した。そして、上手く英語で表現することができなくても勇気をもって自分が伝えたい想いや考えを声に出して相手に発信していくことが大切であると実感させられた。

私がそう思うようになったきっかけは、ホストファミリーの母と毎日夕食と夕食後のお茶タイムを共に過ごしたからだ。1週目は、自分から何かを話すということは出来ず、ただ相手が言っていることを聞くだけになっていた。そのため、意思の疎通が上手くいかず誤解が生じてしまうときもあった。しかし、2週目に入る前からは、少しずつ自分から話題提供をして話しかけることができるようになり、毎日今日は授業でどんなことがあったのか、午後の時間をどのように過ごしたのかなどゆっくりだが話すことができるようになっていった。また、一緒にニュース番組や様々なテレビ番組を見ることで現在のオーストラリアがどのような社会問題を抱えているのか、その問題についてホストファミリーの母がどのように考えているかを知ることができた。

2つ目は、オーストラリアという国についてだ。留学は旅行とは違い、母国とは違う法律や政治体制の中で生活していくため多くの発見があった。そしてこのことは、何をするのも自分ひとりですぐにできないという少し不便な環境の中で生活をしたからこそ言えるのかもしれない。またそれは私が大学生になり、それなりに自分のことは自分でできるようになった今だからこそ新鮮に感じたといえる。

私は、ホームステイ先から大学までの行き方や帰り道では、慣れるまで毎日人に尋ねていた。シドニーの人たちは嫌な顔をせず親切に道を教えてくれたり、頼めば写真をとってくれた。これは、オーストラリアの社会は多種多様な民族が集まって成立しているからなのか、現地の人たちは自分以外の民族に対して変に構え差別や偏見の目でみるということがなかったということが大きな要

因だと考えられる。そのため、こちら側も変に構えたりすることなく気軽に様々な人に尋ねることができた。

日本では、外国人から何かを尋ねられると英語ができないといって逃げてしまうことが多い。私も留学する前までは、片言の英語では相手に伝わらないという考えから逃げてしまうことの方が多かった。しかし、シドニーの人たちはゆっくりでも何かを伝えようとしている人には時間をさいてまで待っていてくれた。このことは、ホームステイ先でも同じことがいえる。私は、一人でのホームステイということもありホストファミリーに会うまで緊張し、不安を抱えていた。その気持ちをどうすることもできずシドニーで過ごす初めての夜はホームシックになり泣いてしまった。それを見たホストファミリーが優しくハグをして慰めてくれた。そして私の方から話しかけると耳を傾けてくれた。そんな人たちと接して私も何か困っている人がいればシドニーの人たちがしてくれたように人の助けになりたいと強く思った。

また、オーストラリアのシドニーは先進国を象徴する高いビルとオペラハウスやQVBなどをはじめとした歴史的建造物と上手く調和のとれた街並みだった。時間帯や見る角度によって見え方が全く異なっていてとても面白かった。

私が今回の留学で得たことは沢山あり、言葉で表現することができないこともある。私にとってこの3週間は、夢のような時間だった。戸惑いや不安で押し潰されそうになったことも沢山あったが、その分嬉しいことも沢山あった。ホストファミリーやクラスメイトと意思の疎通が上手くいったときや道に迷いながらも目的地にたどり着いたときなど些細なことのように思えることも私にとっては大きな出来事であった。日本で過ごしていたらならなかったであろう様々な感情を経験した。そして、英語という多くの人繋がることのできる言葉を話せるようになりたいという思いが強くなった。参加し、多くのことを経験することができて本当に良かった。最後にいつも支えてくれたホストファミリー、一緒に参加したメンバー、そして加寿子先生とアレクセイさんにありがとうと伝えたい。

牛嶋 はるひ 総合マネジメント学部 4年生

オーストラリア・シドニーでの3週間は、毎日が新鮮であったという間に過ぎて行った。毎日通ったシドニー大学は、さまざまな国の文化が混ざり合っていて、自分の成長に繋がる良い環境だと強く感じた。授業ではミスを恐れず、発言することが大切であり、そこからスキルアップに繋がると分かった。オープンクラスでは多くの留学生が集まって一緒にゲームをして交流を深めることができた。話が通じなくてもボディランゲージを使って

"I got a valuable experience!"

コミュニケーションが取れた。BBQがあったり、街中をクイズ形式で観光したりと企画が本当に楽しかった。大学での楽しみの1つとしてはランチタイム。カレー、ピザ、中華などさまざまな国の料理を味わえることが出来た。バターチキンカレーが美味しくてはまってしまった。また食べたいなあ……。私のホームステイ先から大学まではハーブブリッジを通して、オペラハウスを眺めての通学だった。毎日朝早くで大変だったけど、なんだか得した気分でもあった。ホストファミリーは小さい子ども達がいる、毎日「遊んで攻撃」だった。帰ってくると早く遊んで一っつてハグしてくる所が本当に可愛かった。創造性が豊かな子ども達で、音楽を流すと即興で踊ってくれたり、演劇が始まったりと驚かされることばかりだった。子ども達の会話から英語を学ぶことも出来た。最後の方は子ども達の会話も大分理解出来るようになり、分かった瞬間とても嬉しかった。ママやパパからはオーストラリアと日本の違いを教えてもらい、もっと他の国の文化に触れたいと思うようになった。また夕食が本当に美味しく、オーグースタイルのバナナブレッドも食べられて、大好きな時間でもあった。必ずまた訪れたいと思う！休日ではサーフィン体験が一番印象に残っている。海が綺麗で、ここでサーフィン出来ると思ったら、テンションが上がった。最初はなかなか立てず苦戦していたけれど、立てるようになってからはすごく楽しかった。一度きりの経験にせず、またサーフィンをしたいと思う。

I LOVE SYDNEY



柳沼 貴 総合福祉学部 3年生

シドニー大学は、東北大学よりもレベルの高い、とても優秀な大学である。そんな場所に、私が足を踏み入れるということを夢にも見ていなかった。歴史と文化のある大学であり、そのシンボルとなる校舎が建っていた。

私は、全くと行って良いほど、英語が出来ないため、シドニー到着時からとても苦労した。ホストファミリーとの初対面の時は、ようこそシドニーへ！といった挨拶をされたが、聞き取ることが大変だった。それに対しての返事

も出来なかった。しかし、時間が経つと、相手の言っていることは理解できるようになるが、自分の考えや意見を簡単にしか伝えられないもどかしさを感じるようになった。日本語であれば、深いところまで話をできるのにということが多々あった。しかし、シドニー大学のCenter For English Teaching はとても分かりやすい英語の授業を行う機関であった。相手の話を聞き取り、それに対して身振り手振りをしながら伝えることを先生も一体となり全員で取り組むことができた。先生はとてもテンションが高く、体全身で言葉を表現していた。日本では受けることの出来ない授業と言ってもよいだろう。基本構文から不規則な変化のものまでの英語の授業をすべて英語で行うことは、私にとってとても難しいことである。しかし、この授業が私にも理解できた。先生の世界に自分も入り込むことが出来れば、先生が話している英語が、なぜか日本語のように聞こえてくる瞬間が多々あった。

私は、どうして国によって言葉が違うのかなというとても幼稚なことを考えた日もあった。しかし、様々なことを見たり聞いたりするなかで、すべては文化の違いから来ているのだということが分かった。生活様式や考え方、言葉などはすべて文化で変わり、決まるのである。言葉の他に、私が驚いた文化の違いの一つは、オーストラリアは水が貴重であることからの違いである。使用した皿の洗い方の違いであるが、湯船に洗剤を張り、付け置きしてから軽くこすり、そのまま水切り台に乗せて終わりであることだ。さすがないことに驚いた。

日本はサービス精神が豊かな国である。例えば、タクシーのドアが自動で開き自動で閉まる。当たり前と思っていたため、タクシーの前で待っていたが、ドアが開かなかった。服を買ったら、丁寧にたたみ袋にしまうのが当たり前。ぐちゃっと袋に入れられた。これも、文化の違いであるだろう。どこを大切にするかというところが日本と違うのだろう。しかし、日本と決定的に違う部分もあった。それは、人の温かさである。観光客がつかない英語で、道を聞いたりした場合、日本であれば「いや、私英語話せない！！」と言って逃げってしまう人がたくさんいるだろう。オーストラリアでは、すべての方々が丁寧に、道を教えてくれるということが分かった。また、とてもありがたいことであった。

ホストファミリーの家では、夕ご飯が3週間全く同じになるということがなかった。鶏肉を調理し、やわらかくとてもおいしいものをごちそうになった。また、自宅の息子はちょっぴりシャイな感じだったが、最終日に向かうにつれ、笑ったり、助けてくれたりと家族らしさを感じられる瞬間もあった。たまたま帰りのバスが一緒になり、隣同士に座る日があった。しかし、お互い挨拶だけで、それ以上の会話をすることができなかった。英語がもっと話せたら、楽しい時間へと変わっただろうなと後悔した。

様々なことがあった3週間だった。今しか出来ないことが出来た、有意義な時間であった。そして、たくさん苦労もしたが、楽しい時間だった。高橋先生、アレクセイさん、人一倍大変お世話になりました。皆様に感謝。

"We studied English in Sydney Uni"

神先 悠美 健康科学部 1年生

初めの3日間は、日常生活に慣れるのに、精一杯でした。授業では、先生の話すスピードが速くて聞き取れな



かったり、電車では、降りる駅を間違えたり、帰り道では、道に迷ったり、不安で、緊張しっぱなしでした。しかし、道をたずねたとき、すべての人が優しく丁寧に教えてくれました。現地の人の温かさに触れ、うれしかったです。



徐々に慣れてきて、毎日充実した日々を過ごせるようになりました。授業の中では、週に1回オープンクラスというのがあり、別のクラスの人とも交流でき、スペイン、コロンビア、サウジアラビア、中国、韓国など、多くの国の友達ことができました。バーベキューをしたり、チーム戦でクイズに答えたり、ジョン・レノンのイマジンをみんなで歌ったり、楽しい時間を過ごしました。そして、英語のすばらしさを感じました。



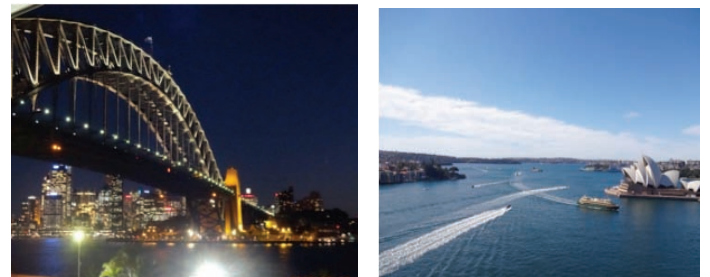
週末には、みんなでブルーマウンテンに行ったり、マンリービーチでサーフィン体験したり、どちらも自然のすばらしさを感じさせる景色でした。

食べ物も口に合う心配はしていましたが、ほとんどおいしく、日本人に合う食べ物は多く感じました。おすすめは、フィッシュ&チップスです。中はフワフワ、外はカリカリで歯ごたえもよく、おいしかったです。もうひとつ行ってほしい所は、フィッシュマーケットです。その食材はすべて新鮮で、安く買えます。特においし

かったのは、牡蠣とサーモンです。また食べに行きたいです。

ホストファミリーは、とても優しい人でよく気を遣ってくれました。マフラーやジャンパーを貸してくれたり、朝にオレンジやパンを渡してくれたり、本当にあったかいファミリーでした。さらに、わたしの誕生日会もしてくれました。19歳の誕生日は、忘れられない日になりました。3週間無事に過ごせたのも、ホストファミリーのおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。今度はもっと英語がうまくなって、また会いに行きたいです。

この3週間はわたしにとってかけがえのない日々でした。毎日が楽しくて、充実していて、最高の思い出になりました。こんなふうに思えるのも、一緒にいったメンバーや先生、ホストファミリー、シドニー大学の先生や友達、そして親のおかげだと思っています。シドニーで感じたこと、学んだことを忘れずに、これからの人生にいかしていこうと思います。



赤間 由奈 子ども科学部 4年生

シドニーに行って思った事・・・

やっぱり、私には日本は狭いってこと・・・

日本の中の宮城県の仙台という街に住んでいて

ちょっとでかけると誰かに会ったり、友達の友達がお知り合いでつながっていたり

世界って狭いな～と思う事ばかりだったけど、

シドニーに行って思った事は 世界は広い！！！！

まあまだこんなこと言えるほど世界中いってないけどね！

でも

前よりいろんな景色や多くの人達と触れ合いたい気持ちは

すごく大きくなりました。

3週間という長いようで短い時間でしたが

大学の新しい友達やかわいい後輩とのステキな出会い、

おおきな海を越えてつながる友人がたくさん増えたこと

私のこれからの人生を大きく変える3週間だったかもし

“Great experience!”

れません。

世界にはたくさんの方がいます。

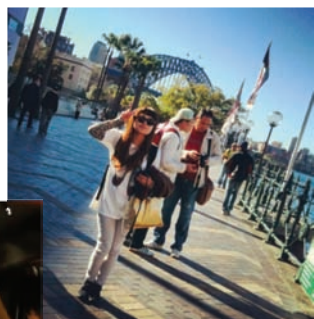
肌の色も、目の色も違います。

話す言葉も違います。

私はそれを楽しめるように生きていきたいと思います。

最後になりましたが、

こんな楽しい思い出を作ってくださった高橋加寿子先生、アレクセイ先生、シドニー大学の先生方に心よりお礼申し上げます。



多田 優里奈 子ども科学部 2年生

We traveled in Australia. We studied English at Sydney Uni. I got a valuable experience.

オーストラリアで過ごした中で、シドニー大学に通いながらいろいろなところに自分たちで行くことができました。シドニー大学では毎日、8時半から13時まで英語の授業



がありました。先生によって授業の雰囲気ややることが

違って、個性のある授業が受けられてとてもおもしろかったです。そして、同じクラスのほかの留学生と英語で話す機会が多いので、勉強しているなあと身を持って感じました。

1週目の土曜日はブルーマウンテンに行きました！日本にはないような壮大な景色を見ることができました。途中で乗ったトロッコは角度が急で怖かったです！でもアトラクションが好きな私にはとても楽しめました。その日はWILD LIFEにも行きました。WILD LIFEでは、コアラやワラビーやワニを近くで見ることができます。ワラビーは思っていたよりも大人しくて、えさもあげることができました。特にかわいくて好きになったのはタスマニアデビルです！タスマニアデビルはオーストラリアの生き物で、初めて見ました。日曜日はダーリング・ハーバーやロックス周辺に遊びに行きました。シドニータワーに上ったことはすごい経験になりました。シドニーを一望できる上に英語でシドニーの歴史を聞くことができました。



その他に私が1番楽しかったのは、サーフスクールです。2週目の土曜日にマンリービーチにみんなで行きました。タイミングや重心のかけ方や姿勢が難しかったですが、1回だけ立つことができたのでとてもおもしろかったです。海は日本では見られないようなとてもきれいな海でした。白い砂でさらさらしていてずっと寝ていら



れそうでした。

ルナパークもとても印象に残っています。ロックスにある遊園地でキャラクターがとても印象的でした。アトラクションは絶叫系が多く、安全性がないように思いましたがそこがまたスリルがあって楽しかったです。

オーストラリアでの生活はとても実り多いものになりました。特に私にとって幼稚園を訪問したのは幼児教育を考えていく上でとても貴重でした。オーストラリアでの経験をこれからの語学の勉強、保育の勉強にいかしていきたいです。一緒に行った先生方、先輩方、友達、オーストラリアで出会った方にも感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

3 exciting weeks in Sydney

窪田 彩未 総合マネジメント学部 3年生

8月5日から26日まで初めての海外に行きました。英語も話せないし、不安ばかりでしたが、とっても楽しい時間になりました。今は、またシドニーに行きたくて仕方ないです。

3週間はあっという間でした。授業は、あたりまえだけど、英語で、先生がなんて言っているか分からないこともありましたが、みんなが助けてくれたり、他のクラスの人と話が出来たりしたのは楽しかったです。英語が話せなくても、周りの留学生と一緒に話そうって誘ってくれて、優しい人たちばかりでした。学校が大きくてびっくりしたし、初めて食べる食べ物もいっぱいありました。フィッシュアンドチップスや、大きいステーキとか、なんでも大盛りで、おいしくて、外国に来ていた感じがしました。

ステイ先から学校までが遠くて、朝は早いし、バスの乗り換えもあったので、慣れるまで時間がかかりました。電車で帰ろうとして失敗して、ホストファミリーに迎えに来てもらったこともありました。結局、最後までバスを間違えてみたり、迷子になったりしてみんなが心配してくれていたこともありました。

授業が終わってから、みんなで遊びに行くのがすごく楽しかったです。公園で遊んだり、オペラハウスに行ったり、お酒を飲んだり、お買い物したり、ちょっとしか時間はなかったけど、本当にいい思い出です。

日曜日はブルーマウンテンやサーフィンにみんなで行きました。ブルーマウンテンはきれいで、その日はかわいいコアラにも会えました。サーフンは、上手く出来なかったけど、いい体験でした。

本当にシドニーに行こうって決めて、行って良かったです。行く前からすごく心配なこともいっぱいあったけど、行ったらみんなが優しくしてくれて、仲良くしてくれたので、毎日全力で過ごせてとっても楽しかったです。写真を見返しても、楽しそうな写真しかないのはみんなのおかげです。本当にありがとうございました。



山本 純他 健康科学部 1年生

私は今年の夏休みの内の3週間をオーストラリアで過ごしました。最初はオーストラリアで3週間生活するのは長いと感じていました。しかし、日本に帰ってきた今考えると3週間という期間は大変短かったと思います。そしてオーストラリアでの3週間は非常に充実していて自分の人生の中で大変価値のある期間であったと考えています。

私がこのオーストラリア留学に参加した理由はさまざまありますが、私は海外へ行ったことが1度もなかったため、オーストラリアへ留学し異文化に触ることで、今まで日本だけにとどまっていた視野や考え方を広げたいと思ったからです。また、普段当たり前のように使っていた日本語が通じず、普段あまり聞くことも話すこともない英語で日常生活をするという刺激的な体験をしてみたいと考えたからです。

シドニーへ着くと大学へ行き、説明を受けた後3週間お世話になることになるホストファミリーの迎えを待ちました。それまではみんなシドニーに来たということで浮かれていましたが、ホストファミリーと初対面ということもあって、その時はみんな緊張している様子でした。そして迎えが来てそれぞれのホームステイ先に向かいました。その時初めて私は日本から一緒に来た人たちと別れ、本当に日本語が通じない、全て英語で話さないといけないという環境におかれ、海外に来たんだということを本当の意味で実感しました。

最初の1週間はさまざまな困難がありました。学校への通学や帰宅もままならないという状況で生活しました。私のホームステイ先には一緒にホームステイをする人がいなかったため、学校へ行く時も帰る時も一人でした。最初はとても不安が大きく、道に迷ったことも何度かありましたが、何とか大きな問題なく生活することができました。日本では電車やバスの行先もわからないということはあまりないので、とてもいい経験となり、このようなことを通して私は一回りも二回りも成長できたと思います。

またオーストラリアへ行き、さまざまな良い出会いをすることができました。ホストファミリー、シドニー大学で知り合った人たち、一緒にオーストラリアへ行った福祉大の人たち、最初は誰一人として知らない存在でしたが、今では私の中で非常に大切な存在です。

私はオーストラリアでさまざまなものを得ました。それは出会い、経験、生きていく力、英語力、その他大変多くのものです。1日1日、毎日何かを得て確かに成長して日本へ帰ってきました。私がこの3週間で得た全てのは、レポートや話だけで簡単に説明できるような小さいことではありません。私は日本を出る前、この留学に参加するか悩んでいましたが、今は参加して良かったと心から思っています。日本にいては何年かけてもできないような多くの貴重で価値のある体験をオーストラリアでできて本当に良かったです。このオーストラリア留学という企画を作り、私がこのような経験をするきっかけを作っていただいた先生方には心から感謝しています。本当にありがとうございました。

"I love Sydney!!!!!!!!!!!"

酒井 彩里 健康科学部 2年生

3週間のシドニーでの経験は今まで経験したことのない充実感と達成感を得ることが出来た。オーストラリアに行く前は、出発日が近づくにつれ期待よりも不安が大きくなり一度は研修を辞めようかと考えたこともあった。今の自分がオーストラリアに行き何を得て帰国できるのか、成長できているのか、無駄にならないか。そんな小さな悩みという不安があった。しかし、シドニーでの生活はそんな不安さえ忘れるほど素晴らしい経験だった。



授業、観光、学習色んなことを3週間で体験し最も有意義な体験となったのが企業訪問だった。オーストラリア特有の問題であり、オーストラリア特有のふくしであるAboriginal

Welfareについて学んだ。歴史から現在の状況、変化、対応策など偏見や差別が生む生活への悪影響など、日本では無い先住民の問題に触れることが出来た。Mr.Williams Vladimirの助けもあり、インターネットでは知る事の出来なかった実情について深いところまで学ぶことが出来た。日本にいたら触れることのなかったAboriginal WelfareやAborigineの人々の生活を学ぶことが出来、日本では決して経験出来ないことを経験することが出来た。

英語の授業は、その都度授業の中に工夫があり授業特有の嫌気を全く感じることなく3週間授業を受けることが出来た。クラスには色々な国の生徒がいて英語でコミュニケーションをとるほか方法



が無い。色々な国の生徒が集まり共に切磋琢磨し学習していく。この状況がとても新鮮で楽しかったことで学習への意欲が高まった。オープンクラスではレベルの違う学生とも関わり、積極性の重要性を学んだ。日本では自信が無いと黙り込むことが普通だった。しかし、海外では自分の意見が間違えていても積極的に意見を出していくことが重要なのだと授業を通し身に染みて感じることが出来た。

この研修の2つ目の私の目的「シドニーを満喫する！」大きな街にまず圧倒された。高いビルが多くあるにもかかわらず窮屈さを感じさせない街。そして何より自然が多い！公園は緑が綺麗に保たれ一つ一つの公園が多きい。緑



が多いことが私は驚いたし、うれしくもあった。

福祉大の学生・先生で行ったブルーマウンテンやサーフスクールも思い出に残る体験だった。ブルーマウンテンでは大きな自然に触れ、オージースタイルのBBQを体験し、動物園に行き沢山の動物を見ることが出来た。動物園では念願のウォンバットを見ることが出来興奮した！サーフスクールでは、最後の最後に立つことが出来達成感と喜びが大きかった！サーフィンの楽しさを少しの時間の中で知ることが出来た。

シドニーの生活で一番感謝したいのはホストファミリー。毎日おいしいディナーを作ってくれたママ、オーストラリアの生活を詳しく教えてくれたパパ、毎日家に帰



ると走ってお出迎えをしてくれた子どもたち、そして時々ディナーを作ってくれていたアンナ。どんなに疲れていても子供たちの笑顔に癒され元気をもらった。本当の妹のように可愛い女の子たちだった。

とにかく毎日が新鮮で充実し最高な3週間だった。たくさんの人と関わり、たくさんの友達が出来た。人と関わる事がこんなに楽しいと感じたことも久しぶりなことです。全てにおいて楽しい！という言葉がついてくる3週間だった。



**I love Sydney!!!!!!!!!!
I love TfU members
and teachers!!!!**

この素晴らしい研修に参加できたことは私の誇りです!!!!

“Open your mind up to new ideas”

川合 千穂 総合福祉学部 3年生

私は大学に入学する以前から留学に興味があり、4年間のうちで一度は英語圏へ留学したいと考えていました。しかし、大学へ入学するとバイトやサークル活動、勉強などに忙しい毎日で、留学したいという想いも忘れかけていました。そんな時、大学でオーストラリア研修の張り紙を見つけ、参加しよう決めました。高校生の時に、アメリカに数日間ですが滞在する機会がありました。しかし、英語もそんなに話せないまま終わってしまいとても悔しい思いをしたことを覚えています。そのような経験から、今回の研修ではもっと英語でコミュニケーションをしたい！という目標を持って、研修に望みました。また、3年生という学年的にも大学で海外に行くのは最後になるだろうから、悔いの残らないように楽しもうという想いで研修に参加しました。

実際のシドニーでの生活は、見る物も、聞く事もすべてが新鮮で毎日があっという間に過ぎていきました。生活をする中で、特に大変だった事はバスの乗り換えでした。シドニーでは、バスが重要な交通機関となっているようで、多くのバスが街中を走っています。しかし、時間帯や曜日によって乗り場が変わったり、バス停の名前がなかったりするところもあり、乗り遅れたり乗り過ぎたりすることも何度かありました。そのような場合、このバスはどこまで行くのか、ドライバーに聞くと降りるところで教えてくれたり、とても親切にしてくれました。聞く時は、英語でないともちろん通じないので、こういう風に聞きたい時は、英語で何と言うのだろうか、自分で辞書を引き、発音することで少しずつですが、英語が身に付いたように感じました。

これから、就活が始まり企業研究などをしていく中で、この語学研修は私にとってすごく影響を与えるものとなりました。社会に出てからも、海外に出ていくことを恐れずに、グローバルに活躍できる人材になりたいとおもいます。

河野 明実 千穂 総合福祉学部 2年生

このオーストラリア留学は、私にとって初めての海外進出だった。日本を出て感じたことは、「英語ってすごいな」ということ。簡単なあいさつや、単語がわかればどんな人とも会話ができる。人種がまったく違っていても英語というコミュニケーションひ



とつで気持ちを伝えることができる。また、身振り手振りだけでも物事を伝えることができる。このようなことをオーストラリアへ行ったことで身をもって体験することがで

きた。また、1週間くらい過ぎると英語を使うことに違和感がなくなっていき、もっと色々な場面で使いたいと思うようになった。そんな思いから、街で道がわからなくなったとき、道を歩いている人に尋ねてみたり、お店で買い物をするときなど積極的に質問して、自ら英語を使うように自然となっていく気がする。そんな中で、私が触れ合ったオーストラリアの人はどの人も本当に親切だった。道を尋ねたときは、どこが目印なのか詳しく教えてくれた。バスを乗り間違えることが何回かあったが、どのバスに乗りなおせば良いのか、正しいバス乗り場まで送ってくれたこともあった。このような良い反面、治安の悪さや貧困を目の当たりにする場面もあった。大きな駅や横断歩道にはホームレスが座っていてお金を求めていたり、オーストラリア先住民アボリジニの差別問題のお話を聞くこともできた。どの国にも良い反面、あまり良くないこともあるのだと感じた。



学校帰りや週末には、シドニーの色んなところへ足をのばし、オーストラリア気分を存分に味わった。コアラもカンガルーも見ることができたし、サーフィンもした。オーストラリアの人々は、日々の生活、人生をとても楽しんでいるように思う。昼間からお酒を飲んでいたり、サーフィンをしていたり、大学内にバーがあったり。絶対また来ようと何度も思った。そのくらいオーストラリアは最高なところだった。

このオーストラリア留学に参加したことで、以前よりも英語に対して苦手意識を持たなくなった。英語を科目としてではなく、コミュニケーション手段の一つで面白いもの、と考える事ができ、このことが一番の大きな収穫であったように思う。これから英語を使ってみたいという気持ちが増したので、英語に触れる機会をもっと増やしていきたい。



I think it was really good that I went to Australia.

I was able to have a lot of experiences and enlarge my horizon. I want to talk with more and more foreigners.

I think it's a lot of fun to use English. English opens up my possibilities.

Thank you for reading my report

資料

滞在スケジュール

Tohoku Fukushi University

Note: This is a program may be subject to changes

							Sunday 5 August 2012	
							Travel to Australia	
Week 1	Monday 6 August 2012	Tuesday 7 August 2012	Wednesday 8 August 2012	Thursday 9 August 2012	Friday 10 August 2012	Saturday 11 August 2012	Sunday 12 August 2012	
AM Class 08:30 - 12:50	ETA SYDNEY 07.40 Pick-up from airport & transfer to Sydney University (CET) Arrive CET approx. 10.00 On arrival morning tea, followed by welcome and Orientation in Room 527-528 - Gerry Brown (Baggage room for the day: Room 505) Approx 11.30 join English classes - open class according to each students' English language level	08.30 - 12.55 English class - open class	08.30 - 12.05 English class - open class. Includes participation in weekly cross-class activity for engagement across cultures and language levels	08.30 - 12.55 English class - open class	08.30 - 12.55 English class - open class	Full-day excursion - sight-seeing in the Blue Mountains - details to be advised (box lunch provided by Homestay hosts). Organised by Meridian Homestay Services tel 9909 2960 or 0419 551623	Free day - personal sight-seeing in Sydney. We recommend you consider a visit to Sydney Fish Markets for lunch!	
PM Activity 14:00 - 17:00	14.00 Campus tour, followed by Student Project briefing - Gerry Brown 17.00 collected by Homestay hosts - transfer to accommodation	1.00 - 2.30pm Faculty Visit - FASS - PhD candidate Nao Kasai: social policy and welfare research: the Australia-Japan comparative context. Venue CET Contact person: Nao Kasai nkas3997@uni.sydney.edu.au 3.30 - 4.30pm Industry Case Study: Social policy in action. The Sydney University Staff and Student Equal Opportunity Unit. Venue CET Contact person Katrina Moriarty 9351 7122	Afternoon private study and homework in CET study rooms and computer labs - set up Student project groups and tasks 5.45 - 6.45pm Sydney Science Forum. <i>Crowd Control: The Principles of Collective Behaviour</i> , The Annual Murray Lecture presented by Professor Iain Couzin, Department of Ecology and Evolutionary Biology, Princeton University, USA. Venue: Eastern Avenue Auditorium	Student Project group work	Free afternoon			
Week 2	Monday 13 August 2012	Tuesday 14 August 2012	Wednesday 15 August 2012	Thursday 16 August 2012	Friday 17 August 2012	Saturday 18 August 2012	Sunday 19 August 2012	
AM Class 08:30 - 12:50	08.30 - 12.55 English class - open class	08.30 - 12.55 English class - open class	08.30 - 12.05 English class - open class. Includes participation in weekly cross-class activity for engagement across cultures and language levels	08.30 - 12.55 English class - open class	08.30 - 12.55 English class - open class	Full-day excursion - a day with Manly Surf School surfing on Sydney's northern beaches. Includes transport, two 90-minute surfing lessons and lunch. Organised by Meridian Homestay Services tel 9909 2960 or 0419 551623	Free day - personal sight-seeing in Sydney We recommend you consider a visit to Sydney Taronga Park Zoo!	
PM Activity 14:00 - 17:00	Afternoon private study and homework in CET study rooms and computer labs	Industry visit - OzHarvest Contact person: kim.morris@ozharvest.org	Student project group work. Afternoon private study and homework in CET study rooms and computer labs	Industry visit - Anglicare Contact person: Sue King, Director Advocacy and Partnerships Tel 9895 8017	Free afternoon			
Week 3	Monday 20 August 2012	Tuesday 21 August 2012	Wednesday 22 August 2012	Thursday 23 August 2012	Friday 24 August 2012	Saturday 25 August 2012	Sunday 26 August 2012	
AM Class 08:30 - 12:50	08.30 - 12.55 English class - open class	08.30 - 12.55 English class - open class	08.30 - 12.05 English class - open class. Includes participation in weekly cross-class activity for engagement across cultures and language levels	08.30 - 12.55 English class - open class	08.30 - 12.55 English class - open class	Transfer to airport and departure ETD SYDNEY 09.30		
PM Activity 14:00 - 17:00	Afternoon private study and homework in CET study rooms and computer labs	Industry visit - JobSupport and Rachel's Story	Afternoon private study and homework in CET study rooms and computer labs	Faculty visit - International Office, Sydney University - postgraduate opportunities. Contact person: Nathan Headlam 8627 8372	13.00 - 14.00 Graduation ceremony, presentation of certificates of completion and lunch, followed by free afternoon			

グループ研究プロジェクト

Groups List

Group 1 Childcare and Foster care related

Akama Yuna
Hirano Koto
Kubota Ayami

Group 2 Childcare and Foster care related

Taniguchi Mami
Tada Urina
Yoshida Kazuma

Group 3 The Smith Family

Homma Koji
Kawai Chiho
Sugawara Mikako

Group 4 Aged care

Haga Tadashi
Sudo Ayaha
Ushijima Haruhi
Yamamoto Junya

Group 5 Disabled care

Iwahori Hitomi
Kanzaki Yumi
Sumiyama Mai
Tsuda Tomoe

Group 6 Aboriginal Welfare

Aoyama Yuri
Kono Akemi
Sakai Sari
Yaginuma Takashi

Project Schedule

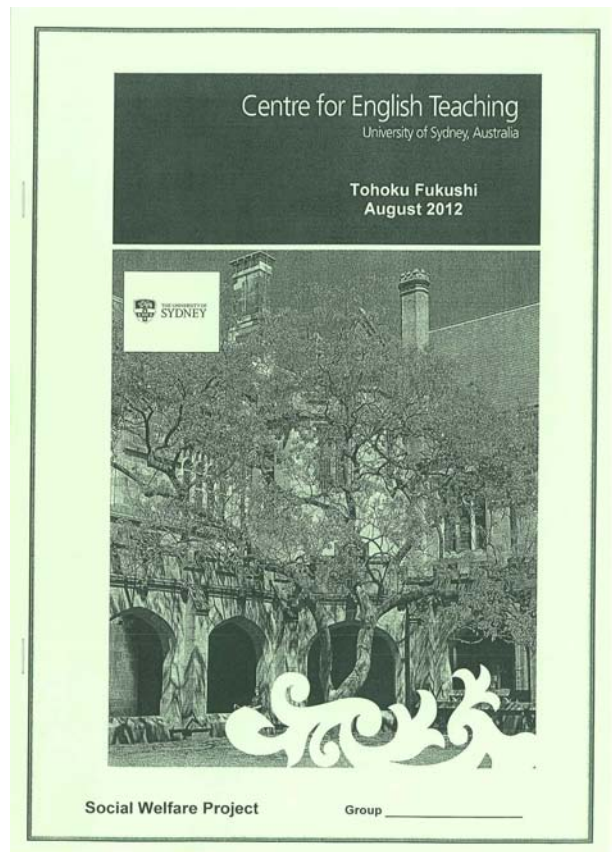
It is important to work continually and consistently on the project to ensure that your group completes all tasks, hands in its group report and delivers the group presentation on time.

Week 1	Project details explained Begin research, collect information Set duties and tasks within group Consider practical aspects of visits and interviews, e.g. location of facility / office / shop etc.
Week 2	Develop questions / questionnaires Arrange on-site visits and interviews Record information and interpret Start writing report
Week 3	Wednesday – Group Reports Due Thursday – Deliver Group Presentations.

Face book Page

You may want to consider setting up a special Tohoku Fukushi Facebook Project page to create an online learning community which would enrich your university group's learning experience in this task. It would also allow your university colleagues back in Japan to be part of your work here in Sydney.

This is entirely voluntary but would be an invaluable review and research tool for the future.



The Study

Sectors and Agencies: (suggestions/not comprehensive)

- Job support
- Oz Harvest
- Salvation Army (Salvos)
- St. Vincent de Paul Society (Vinnies)
- Oxfam
- Anglicare
- Home carers
- Aboriginal Welfare
- Aged care
- The Smith Family
- Childcare and foster care
- Homeless care

Method of Investigation/Research:

- internet search
- personal contact – email/phone/in-house visits
- use of group drafted questionnaires with facilitator support
- informal discussions with staff, personnel and other stakeholders

グループリスト

グループ 1 チャイルドケア

赤間 由奈
平野 香都
窪田 彩未

グループ 2 チャイルドケア

谷口 愛美
多田 優里奈
吉田 和真

グループ 3 スミス ファミリー

本間 康司
川合 千穂
菅原 美華子

グループ 4 高齢者ケア

芳賀 直
須津 彩葉
牛嶋 はるひ
山本 純也

グループ 5 障害者ケア

岩堀 仁美
神先 悠美
隅山 舞
津田 知恵

グループ 6 アボリジニー社会福祉

青山 侑璃
河野 明実
酒井 彩里
柳沼 貴

プロジェクトスケジュール:

第1週 研究プロジェクト詳細説明

調査を開始、情報収集
グループ内に役割分担

第2週 アンケート作成

企業訪問、インタビューの実施
情報の記録、翻訳
レポート作成開始

第3週 水曜日 - レポート提出日

木曜日 - プレゼンテーション

訪問先:

- Job support
- Oz Harvest
- Salvation Army
- St. Vincent de Paul Society
- Oxfam
- Anglicare
- Home carers
- Aboriginal Welfare
- Aged care
- The Smith Family
- Childcare and foster care
- Homeless care

調査研究方法:

- インタネット検索
- 直接コンタクト - メール/電話/訪問
- 作成した質問集の利用
- スタッフ、利用者、などと情報共有、議論

Enrich your life with experience

Great opportunity for various experiences and adventures in Sydney and its surroundings. Enrich your life in one of the most exciting and vivid cities in the world.

Explore Australia's nature and culture

Australia is a country with a lot to offer for a curious mind. There are many of chances to explore its history, culture, and nature even during a short visit.

Learn in excellent academic environment

Sydney University offers the highest quality English language programmes for any levels in the state-of-art learning environment.

